

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第29号
平成19年1月
生涯学習課文化財係

わがまちアルバム ～JR 長岡京駅～



展示期間

平成19年1月5日（金）～

平成19年4月1日（日）

平成17年、長岡京駅西口の再開発事業完成によって、長岡京駅周辺は面目を一新しました。駅はまちの玄関です。通勤や通学、あるいは外出で、たくさんの方が利用します。新しい駅前の風景を前に、もう一度長岡京駅の歩みを振り返ってみましょう。



神足駅の開設

明治9年（1876）、向日町駅から大阪へむけ、初めて蒸気機関車が走りました。

乙訓地域では隣の向日町や大山崎村に駅があるのに、新神足村にないというのは不便で、鉄道省や大阪鉄道局にたびたび請願や陳情を行っていました。その結果昭和4年（1929）、鉄道省から停車場を新設する旨の内示令がありました。

この大事業実現のため、新神足村では、停車場設置委員会がつくられ、鉄道省指定寄付金や用地の確保、駅舎建設費用などのため、村をあげて寄付金が集められたのです。

その熱意と努力が実って、昭和6年8月、請願駅として「神足駅」が開設されました。

当時としてはモダンなつくりで、祝賀会では記念の扇子や絵葉書が配られました。



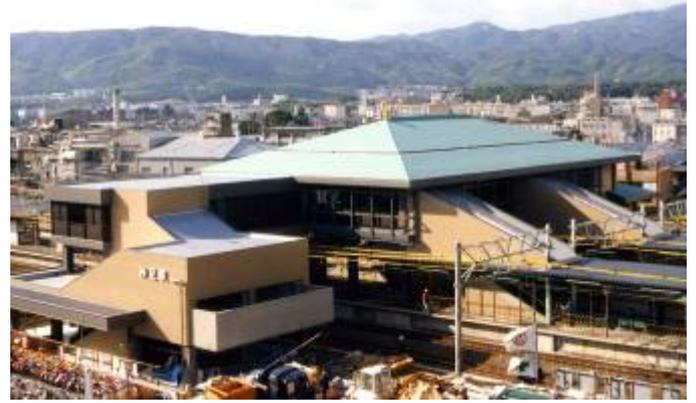
新設の神足駅全景 絵葉書 南から



新設の神足駅 絵葉書



神足駅東口（昭和 47 年）手前はセメント会社の引き込み線



橋上駅となった神足駅（昭和 62 年）

東口の設置

神足駅の設置と同時に、駅のまわりの竹やぶは区画整理を行って工場を誘致し、周辺は一大工業地帯となりました。

都市化に伴って企業はさらに増え、昭和 35 年（1960）、神足駅東側に所在する各社から神足駅東口開設に関する請願が町議会へ提出され、これをうけて国鉄に対する請願が決議されました。

また東口設置期成同盟会を結成して運動するとともに、出口広場の土地を提供、さらに工事費の全額を地元で負担することとし、町と駅東側に所在する企業で分担して支出することになりました。

その結果昭和 39 年に、神足駅東口が開設されたのです。

橋上化と駅名改称

神足駅の駅舎は老朽化が進み、市民生活にとっても何かと不便になったため、市の玄関口にふさわしい駅舎に改良されることになりました。

昭和 62 年（1987）、翌年に行われる京都国体を契機に、市が多額の費用を負担して、神足駅の橋上化が完成したのです。またこの時に、東口駅前の整備も進められました。

さらに平成元年（1989）3 月、「神足駅西口地区市街地再開発事業基本構想」が策定され、西口の再開発事業がスタートしました。

そして平成 7 年 9 月には、駅の名称が「長岡京駅」と改称されたのです。



神足駅東口駅前の整備（昭和 63 年）



「長岡京駅」と改称（平成 7 年）